



第**2**号 : インターネット版

2001. September

<http://www.tufs.ac.jp/common/library/gaiyo/kanpo/castalia-2.pdf>

目次 contents

巻頭言

情報リテラシー授業（情報検索1・2）報告

貴重書紹介

1. ロシア語貴重書
2. 中国語貴重書

私の一冊 「アメリカ革命におけるイデオロギー的起源」

図書館利用統計（平成13年3月 8月）

図書館からのお知らせ

- 図書館利用者アンケート集計結果
- 秋期講演会及び貴重書展示会のお知らせ
- 展示会報告
- 中央大学図書館との協定締結
- 図書館日誌・職員の動静

編集後記



巻頭言

附属図書館長 富盛 伸夫

この度9月1日付けで前池端雪浦先生から引き継ぎ、図書館長職を拝命して約一ヶ月たちましたが、その間、図書館の機能や運営について勉強をはじめると同時に、想像を絶する被害をもたらす世界を揺るがす事件が続発しました。同時に、最悪の場合は第3次世界大戦へと移行しかねない危機的状況の中に、私たちは否応なしにおかれてしまいました。今、例外なく誰もが、一学生として、一教職員として、また一市民として、何を考えどのように行動すべきかが問われ、この結果が私たち人類の未来を決定してゆくことは明白です。今日ほど、世界諸地域の言語文化社会を研究する東京外国語大学に属している私たちひとりひとりに対して、国際社会での共生に向けての期待が大きい時はないと言えましょう。

それはとりもなおさず、新たなページが開かれようとしている時代に貢献する大学図書館はどのような姿に変わってゆくべきか、という焦眉の課題に答えることでもあるといえます。古代アレクサンドリアの時代以来の学問知識の集積場所であるという伝統はまもりつつも、専門化した知識を再編し高度な付加価値をつけて社会に問い返してゆくポータルサイトのな学術情報の発信基地となるべきであることはいうまでもありません。先輩たちのお陰で美しいキャンパスに立派な図書館の建物ができました。同僚諸氏のご努力により移転も滞りなく実現し、以来順調に運営されています。しかし、今こそ、図書館が場所的価値から機能的な価値へと質的な転換を図る時に向かっているのではないのでしょうか。誰もがノスタルジーを感じる書物の収蔵庫という古めかしい建物のイメージから、そこで何を研究し何を発信してゆくか、つまり、そこから何が生まれようとしているのかを問いかけることが重要であろうと思います。そのためにも、図書館利用者が、自らの頭で考え、自らの感性で問い直すことのできる環境づくりを心がけたいと思います。学生・教職員、そして地域の方々にとっても、今までより一層、知の領域に入るしきいは低く、同時に、知に向かうまなざしは高く保つことが大切なことであろうと考えます。そのためにも、どうか、皆様方のご協力とご鞭撻をお願いいたします。

< 略歴 >

富盛 伸夫 1948年生まれ 東京外国語大学外国語学部教授
専攻 言語学・ロマンス言語学



情報リテラシー教育（情報検索，）

附属図書館

東京外国語大学では、新入生（および3年次編入生）の必修科目として、「情報リテラシー」を平成13年度から新設しました。授業の目的は、(1)コンピュータやインターネットの基礎を理解する (2)学内の情報機器の利用方法を学び、有効な情報検索を行う (3)専攻語をコンピュータで使う、の3点です。授業は1学年約800名を3クラスに分け、7月までの半期13コマ（講義および実習）で、複数の教官がリレー方式で担当しました。なお、この授業の内容をもとにした図書の刊行が予定されています。

「情報リテラシー」の授業のうち、第8回と第9回の2コマの講義（6月12日～21日）については、附属図書館の事務職員が担当しました。図書館に割り振られたテーマは、「情報検索法」でした。第8回は、情報検索の基礎、またはその前提となるものとして、図書館の使い方を説明しました。教員の担当した各回の内容は、主として狭義の「情報リテラシー」つまりコンピュータ・リテラシーが中

心のものでしたが、そのコンテキストの中で図書館の分担する回に期待されているものは何かと考へ、第9回はインターネット上での情報検索（蔵書検索、文献検索、サーチエンジン等）のコツと実例を、現場の体験に基づいて説明しました。

近年は、情報リテラシーの向上やIT環境の整備が国の政策として推進されつつあることを背景に、全国の多くの大学で情報リテラシーの授業が開設されるようになってきました。また、授業の一部を図書館職員が担当または補助する機会も増えつつあります。日本図書館協会大学図書館部会と国公立大学図書館協力委員会の主催する第18回大学図書館研究集会（9月13日～14日）の第二分科会「情報リテラシーと相互協力」（発表7件のうち1件は、東京外国語大学からの事例報告）の分科会趣旨には、「情報リテラシーについて、文部省大学審議会では、平成12年11月22日答申において、「主体的に情報を収集し、分析し、判断し、創作し、発信す

る」能力と位置付けている。とりわけ、社会全体の生涯学習への意欲が高まる中、大学図書館が情報リテラシーの能力の向上に果たす役割はますます重要になっている。」という記述があります。

各大学の図書館では従来から、それぞれにオリエンテーションやガイダンスを実施してきましたが、多くの場合は任意参加のため、学生の在籍者数に比してじゅうぶんな参加者数が得られない悩みがありました。必修科目の中への図書館の担当回の組み込みは、図書館の使い方や情報検索の基本を利用者全員に行き渡らせるという目標へ向けて、大きな前進といえます。

ところで、「情報リテラシー」という用語は、狭義には、コンピュータの操作技能の習得(コンピュータ・リテラシー)を指しますが、広義には、情報を収集し、整理・加工し、自ら情報を発信するまでのあらゆる知識・技能を含みます。また、「メディア・リテラシー」という用語は、「情報リテラシー」の同義語として使用される場合もありますが、狭義には、メディアを読み解く(報道にだまされない)主体的な判断力の養成(メディア論、マスコミ、ジャー

ナリズム等と関連する、社会学的領域)を意味します。図書館の立場としては、「情報リテラシー」を広義で、つまり、機器の操作だけではなく、情報を主体的に発信するための基本技能としてとらえています。レポート・論文の内容面の指導は教員の領分ですが、参考文献の書き方をはじめとして、形式面のガイド/サポートを提示したいと考えています。今回の2コマの講義の時間内では、情報の発信方法についてまで言及する余裕はありませんでした。また、検索実習の時間も必要と認識しています。今後のサービスメニュー拡大と内容の充実へ向けて、順次準備していきたいと思います。

「情報リテラシー」授業は、担当させていただいた図書館職員の側としても、広義の情報リテラシー、すなわち、情報の検索・収集、資料文書の作成、口頭発表という一連の流れを実習する場となりました。たとえば、説明用の資料に盛り込む検索例を作るために、このように入力するとこういう結果が出てくる、というつもりでいろいろ試してみると、結果が予期したものと違う場合がしばしばあり、日頃、各種検索シス


テムを常用する業務に携わって
いながらも、使い方をあまりきち
んと確認せずに使用していたこ
とに改めて気付かされることが
たびたびありました。

図書館の分担した回の説明資
料は、ホームページにも公開し
(<http://www.tufts.ac.jp/common/library/guide/literacy/literacy.html>)、日常の検索案内のガイドとしても活用しています。「情報リテラシー」授業の受講者以外の一般利用者の皆様にも役立つよう、図書館の使い方や検索の手順等について、具体的な説明を記述し、実際に使える跳び先もリンクしてありますので、ぜひご利用ください。

ところで、一般に、ものごとを調べるには、それなりの手順、方法論があります。調べ事をするための知識・技能は、読み書き能力の延長線上にある情報リテラシーの一環として、学生や研究者に限らず(学習や研究のためだけではなく)、あらゆる人々に(日常生活や卒業後の実務、趣味・娯楽の場面でも)有用なものです。文献・情報の調べ方や図書館の使い方については、各種の手引書が刊行されていますから、適当なものを選んで目を通しておくことを

お勧めします。この分野の図書は、「レファレンス」とか「参考業務」といって、NDC(日本十進分類法)の分類番号では015のあたりに配架されています。

図書館では、「情報リテラシー」授業以外にも、利用者の皆様に図書館を有効に使っていただくための講習会を今後とも企画・実施していく予定です。実施方法や内容について、ご意見ご要望などありましたらお寄せいただきたく、よろしくお願い申し上げます。


 <附属図書館所蔵貴重書紹介>

1. ロシア語貴重図書の紹介

本学外国語学部教授 渡邊 雅司

一橋の院生だった頃、古い煉瓦造りの図書館本館の書庫のなかで、革表紙の本を開いて見ると、そこに外国語学校の印と商業学校の印が捺されていて、明治18年の合併吸収劇のことが思い出され、複雑な感慨を持ったことを、今も鮮やかにおぼえている。だからといってそれを返還して欲しいなどとはつゆ思わなかったが、未整理本のなかに私の年来の研究テーマである、メーチニコフ（ガリバルジ軍の副官で、西郷隆盛の招聘で来日し、外語で教鞭をとった革命家）直筆の代数と幾何の教科書だけは、いずれ外語のミュージアムでも出来たら、そこに陳列したいなと思ったものだった。しかしそれも果たせぬ夢、一橋図書館の改築により、無数の段ボールのなかに紛れこんでしまい、その所在がわかるまでには何年かかるか分からないことを、2年前の外語百周年の時に思い知らされた。僕の手元にそのコピーが残されていることがせめてもの慰めである。

それはさておき、今の外語が所蔵する貴重図書の一端を紹介する。わが国では本学だけが所蔵すると思われる一冊に、(1)ロモノソフの『ロシア文法』(1755)がある。農民の出身ながら、ドイツ留学をはたし、自然科学、歴史学、言語学、文学の分野で、多彩な業績を残した彼は、まさにロシアのダヴィンチともいべき天才で、モスクワ大学は今なお彼の名を冠している。ロモノソフ文法は、日本に幽閉され、その間に馬場佐十郎等にロシア語を伝授したゴロヴニンによって日本に伝えられ、馬場はこれをもとに本邦初のロシア語文法ともいべき「文法規範」(1813)を著している。また特別図書として別置されている(2)「露和字彙」(明治20年)は、市川文吉、古川常一郎、嵯峨寿安、黒野義文、藤堂紫朗といった旧外語露語科の教員が文部省の命で総力を結集して短期間で編纂した記念碑的露和辞典である。上下二巻、2,749ページ、収録語数11万というから

当時としては驚異的である。唯一の難点はこの初版では日本語の活字が右から左へ縦に組んであり単語を引いた後で首か辞書を90度回さねばならなかった。それにしても僅か7年間でこの大事業をなし遂げた外語の先達に脱帽。

ロシア語図書には、個人名を冠した文庫がいくつもあるが、なかでも日本におけるロシア語教育の創始者八杉貞利文庫には、語学関係だけでなく、幅広い分野にわたって稀覯本といえるものが多く含まれている。なかでもピョートル大帝の父アレクセイ・ミハイロヴィッチの時代に編纂された(3)『法典』(1649)(これはロシアではじめて活字になったもの)の第二版(1737)は本学所蔵のロシア語文献では最古のものだろう。正式名は、『皇帝陛下にして大公たるアレクセイ・ミハイロヴィッチの御領地にて編纂、印刷され、ロシア国家内のすべての事件の裁判、判決が準拠すべき法典』。ロシアでは法典編纂の試みは幾度かあったが、1832年の帝国法典までみな不首尾におわったので、この法典は17,8世紀のロシアの法制ならびに社会関係を知る上で不可欠の文献である。なお貴重図書というわけではないが、明治期以来日本で出た辞書、教科書、参考書がほとんど網羅的に集められているので、ロシア語教育史を知るには便利である。

なお一般の書庫に収められているものなかで、筆者が外語にしかないと思って利用した図書として、1840年代に刊行されたスラブ派の機関誌(4)『モスクヴィチャーニン』(全巻揃っているのは、ロシア本国でも珍しい)や、代表的なスラブ派の論客(5)ホミャコフの著作全八巻を最後にあげておこう。

<各著作の請求番号>

1. 特680
2. 特234
3. 八杉 / / 64
4. 旧分類R / / 1777
5. 旧分類R / / 214 (1~8)

2. 中国語関係貴重図書紹介—諸岡文庫

本学外国語学部教授 小林 二男

本学図書館には幾つかの特殊文庫があるが、ここではそのうち中国語関係の特殊文庫である「諸岡文庫」を紹介したい。

「諸岡文庫」は本学の前身・東京外国語学校で教鞭を執られた諸岡三郎先生の蔵書 8300 余冊が、先生の没後、遺族により本学図書館に寄贈されてつくられた。

先生は明治 10 年（1877）旧佐賀藩の士族の家の生まれ。明治 36 年（1903）本学の前身・東京外国語学校清語科卒業後、同年 11 月に東京建物株式会社に入社し、同年 4 月に開設されたばかりの清国天津支店に勤務、20 数年勤務の後大正 14 年（1925）に辞職して帰国。同年 8 月より翌大正 15 年末まで北京に遊学。昭和 3

年 1 月（1928）より本学の前身・東京外国語学校の講師となり、以後 14 年 8 か月にわたり漢文と中国文学を講じ、昭和 17 年（1942）8 月 65 歳で逝去された。

「諸岡文庫」は天津時代に収集されたという書籍が中心で、とりわけ旧小説戯曲など俗文学関係のものが多いが、日本出版の中国語学関係の貴重な書も少なくない。「諸岡文庫」については『諸岡文庫目録』（昭和 53 年）があるが、本学図書館を別にすれば、すでに簡単には見られなくなっていると思われる。以下に「諸岡文庫」に蔵される貴重本の一部を具体的に紹介したい。

語学関係について：

- 『新鐫増補較正寅幾熊先生 尺牘雙魚九卷』（明）熊宣機編 中野市右衛門刊行 承應 3（1654）
1 帙 9 冊
- 『實字解六卷』皆川淇園 寛政 3（1791）1 冊
- 『新刊校正用字格』伊藤長胤輯 京都 林芳兵衛 寛政 4（1792）2 冊
- 『助語審象卷上中下』橘園三宅先生口述 門人釋海定・三上惇・宮永寅筆録 文化 14（1817 年）
平安書林 3 冊
- 『助字考證 上下巻』伊藤善韶 浪華 柏原屋清右衛門 江戸刊 2 冊
- 『續虚字解 上下巻』皆川淇園詮譯 京都 天王寺屋 江戸刊 2 冊
- 『雜學類編七巻』柴貞穀重修 江戸 須原屋茂兵衛等 江戸刊 2 冊
- 『助字詳解三巻』皆川淇園編 京都 藤井孫兵衛 明治 9（1876）3 冊
- 『用字群玉』長井澄明編集 長井澄明 明治 10（1877）
- 『官話指南第一巻』吳啓太・鄭永邦著 東京 楊龍太郎 明治 15（1882）
- 『総譯亜細亞言語集支那官話部四巻』廣部精譯述 東京 青山堂書房 明治 25（1892）再刻版
- 『自邇集平仄編四声聯珠』福島安正編 東京 博文館 明治 35（1902）
- 『北京官話 虎頭蛇尾』金国璞編 北京 日本人清語同學会 明治 40（1907）
- 『談論新篇』金国璞・平岩道知 合著 東京 文求堂 大正 13（1924）第 14 版
- 『華語跬歩』御幡雅文編 東京 文求堂 明治 40（1907）5 版
- 『官話指南總譯』吳泰寿著 東京 文求堂 明治 41（1908）年 3 版
- 『改訂官話指南』吳啓太・鄭永邦著 金国璞改訂 東京 文求堂 大正 15（1926）21 版

などが蔵されている。

これらは日本における中国語教育・学習の歴史を辿る上でいずれも貴重な資料である。

本学図書館の「貴重資料指定基準」は漢籍についての貴重資料指定基準を「1868（明治元年）以前に印刷若しくは書写されたもの」としているが、今「諸岡文庫」の中から1868年以前のものをあげてみる：

- 『新鐫玉茗堂批點按鑑參補北宋志傳十卷』研石山樵訂正 織里崎人校閱 玉茗堂 萬曆46(1618)刊本 1帙5冊
- 『合刻管韓二子(管子二四卷,韓子二十卷)』葛鼎・丁此聘訂閱 崇禎11(1638) 1帙6冊
- 『正字通十二卷首一卷』張自烈・廖文英全輯 清畏堂藏板 康熙24(1685) 4帙31冊 缺卷六の中下
- 『顧氏音學五書三八卷』(清)顧炎武撰 符山堂藏版 康熙6(1667) 2帙20冊
- 『大廣益會玉篇三十卷』(梁)顧野王撰(唐)孫強校(宋)陳彭年重修 康熙43(1704)・仿宋本 張士俊刊 澤存堂藏板 1帙3冊
- 『唐試帖細論六卷』(清)魯亮儕評釋 本衙藏板 康熙54(1715) 1帙4冊
- 『嘯餘譜十一卷』(明)程明善編 清康熙刊 2帙23冊
- 『天津縣志二四卷』(清)張志奇・朱奎揚總裁 吳廷華總修 乾隆4(1739) 1帙8冊
- 『繡像女才子十二卷首一卷』鴛湖煙水散人撰 大德堂 乾隆15(1750) 1帙4冊
- 『雲林別野新輯酬世錦囊四集』(清)鄧景揚輯 乾隆36(1771) 1帙16冊
- 『藏園九種曲』蔣士詮 經綸堂 乾隆39(1774) 蔣氏原本 2帙12冊
- 『尚書後案三十卷尚書後辨一卷』(清)王鳴盛 乾隆45(1780) 1帙8冊
- 『皇清開國方略三十二卷首一卷』(清)阿桂等奉勅撰 乾隆51(1787) 1帙8冊
- 『六書通十卷』(明)閔齋傑撰 (清)畢弘述篆訂 順治十八(1661)年序基聞堂篆訂 閔氏稿本 1帙10冊
- 『玉燕堂四種曲』張漱石 光齋堂 清乾隆中刊 1帙8冊
- 『莊子雪 內篇外篇雜篇』(清)陸樹芝輯註 嘉慶4(1799) 文選樓藏板 1帙3冊
- 『繡像 錦香亭全傳』九友山房 嘉慶7(1802) 4冊
- 『乾隆府廳州縣圖志五十卷』乾隆勅撰(清)洪亮吉撰 嘉慶7(1802) 1帙8冊 缺24~50卷
- 『元史藝文志四卷元史氏族表三卷』(清)錢大昕 江蘇書局刊版 嘉慶11(1806) 1帙3冊
- 『藝文備覽十二集百二十卷』沙木集注 本衙藏版 粵東督權使者長者白阿克富 嘉慶11(1806) 3帙26冊
- 『增補剔弊 五方元音二卷首卷一卷』(清)樊騰鳳手著 趙培梓改正新編 京都文成堂藏版 嘉慶15(1810) 1帙5冊
- 『豈有此理四卷更豈有此理四卷』醒目齋梓 嘉慶19(1814) 1帙4冊
- 『說文字原韻表二卷』(清)胡重編 金孝柏訂 歸安姚氏咫進齋藏版 秀水金氏月香書屋 嘉慶16(1811)
- 『繡像天雨花』梁溪陶貞懷編 嘉慶18(1813) 2帙32
- 『繡像盞香丸四卷』 嘉慶22(1817) 4冊
- 『繡像梅花韻全傳十卷』鴛湖藏版 道光1(1821) 9冊 缺第十卷
- 『金石學四卷』(清)李遇孫輯 芝省齋藏版 道光4(1824) 2冊
- 『康熙字典四十二卷』 道光七年(1827) 奉旨重刊本 4帙40冊
- 『文心雕龍十卷』(梁)劉勰撰 兩廣節署刊朱墨套印本 道光13(1833) 1帙4冊
- 『重刻字學三書』 十芝堂藏板 道光20(1840) 重刊 1帙6冊
- 『學治一得編』何耿繩輯 眉壽堂刊版 道光21(1841)
- 『明刑管見錄一卷』(清)穆翰撰 眉壽堂刊版 道光27(1847)
- 『納書楹曲譜四卷續集四卷外集二卷補遺四卷』(清)葉堂訂譜(清)王文治參訂 納書楹藏板

道光 28 (1848) 3 帙 12 冊

- 『玉茗堂四書』(明)湯顯祖撰 道光 28 (1848) 1 帙 4 冊 缺「牡丹亭還魂記全譜」
『玉茗堂四種』(明)湯顯祖撰 臨川湯若士原本 玉茗堂 清刊 8 冊
『正音咀華三卷續卷一卷』(清)程蘇甫 雙門底聚文堂藏板 咸豐 3 (1853) 1 帙 2 冊
『爾雅郭注義疏二十卷』(清)郝懿行撰 吳門湯漱芳齋刻印 咸豐 6 (1856) 1 帙 8 冊
『忠孝節義二度梅全傳六卷』惜陰堂主人輯 維經堂板 咸豐 7 (1857) 3 冊
『繡像今古奇觀四十卷』(明)抱甕主人 慶雲樓藏板 咸豐 8 (1858) 1 帙 10 冊
『字彙十二集首末二卷』(明)梅膺祚撰 上洋 江左書林藏板 同治 7 (1868) 2 帙 14 冊
などがある。

また、日本で 1968 年以前出版された漢籍には：

- 『禮記集說三十卷』(元)陳澧 寛文 4 (1664) 野田庄右衛門開版 15 冊
『郁離子二卷』[明]劉基撰 京城 式酉堂発刊 安田萬助版 享保 17 (1732) 2 冊
『李卓吾批點世說新語補二十卷』(宋)劉義慶撰(梁)劉孝標注 安永 8 (1779) 10 冊
『新刻頭書詩經集註八卷』(宋)朱熹集傳 寛政 3 (1791) 再刻 今村八兵衛藏板 8 冊
『家禮五卷圖一卷』浪華書林 河内屋喜兵衛 寛政 8 (1796) 3 冊
『西湖竹枝詞』五山池桐孫批 江戸書肆五山堂梓 文化 8 年 (1811)
『唐詩選講釋七卷』(明)李攀龍編選 千葉子玄口述 嵩山房藏 文化 10 (1813) 7 冊
『精選唐宋千家聯珠詩格二十卷』(宋)于濟・蔡孫孫 編集 東都書林 須原屋茂兵衛等 天保 2 (1831)
10 冊
『岳忠武王集』(明)單恂編 江戸 和泉屋金右衛門 文久 3 (1863)
『校正五經』廣徳館校正 慶應 3 (1867) 11 冊
『輶軒使者絶代語釋別國方言十三卷』(漢)楊雄(晋)郭璞解(明)程榮校 江戸 慶元堂藏板 和
泉屋庄次郎 江戸刊 1 冊

などがある。もちろん、以上が貴重書のすべてではない。

他に中国現代文学関係の書も少なくない。中国で「文学革命」を契機に現代文学が成立したのは 1910 年代後半であり、日本では 1920 年代当時はほとんど注目されていなかった。「諸岡文庫」には魯迅、周作人、冰心、郁達夫、茅盾、葉聖陶、郭沫若など現代文学の作品も少なからず蔵されている。諸岡先生の関心がいかに広がったかを窺うことができる。

「諸岡文庫」が本学図書館の「宝庫」の一つであることは、以上の部分的紹介からお分かりいただけると思う。本文庫については『諸岡文庫目録』があり、それによってその全貌を知ることができるが、目録には誤りや不適切な記述

も散見される。また諸岡先生が残された貴重な財産はひとり本学だけのものでもない。できるだけ多くの人に利用してほしい。目録の整備とそのインターネット上での公開は本学の果たすべき社会的責務の一部である、と思う。

私の一冊

バーナード・ベイリン著『アメリカ革命におけるイデオロギー的起源』の紹介

本学外国語学部教授 荒 このみ

バーナード・ベイリンの『アメリカ革命におけるイデオロギー的起源』(Bernard Bailyn, *The Ideological Origins of the American Revolution*)を読んだのは大学院生のときだった。就職もなく大学院にひたすら長く所属だけはして、半ばモラトリアム生活を送っていたころ、しばらくアメリカ東部に滞在した。そしてすでに高い評判を得ていたこの本を手にしたのだった。きわめて専門的なしかも特定の狭い時期を取り上げている歴史書であるにもかかわらず、たいへん刺激的な本だった。歴史専攻ではなくとも読者は十分に知的好奇心をそそられ、二百年前のアメリカ社会を思い巡らしながら、想像力を豊かに羽ばたかせるそのきっかけを与えてくれたのだった。

歴史書には事例の羅列であったり、その説明であったり、あるいはまた抽象的なイデオロギーやその展開を記述したものが多く、想像力を刺激するものが少ないと勝手に思い込んでいた。ところがベイリンの本からは著者の声が聞こえてくるばかりでなく、一八世紀の時代を生きる人々の、アメリカ人のみならず大西洋の向こうのイギリス人の声までもが聞こえてくるのだった。かれらの情念が生き生きと直接的に描き出されている歴史研究書であった。そしてベイリンはアメリカ独立運動を、旧世界の人々の思想体系とまったく離れて起きたのではなく、ヨーロッパの啓蒙の時代と連鎖しながら起きているのだという壮大なパースペクティブのもとで分析する。そのようなベイリンの本から学んだのは、あらゆる歴史的事実は大きなうねりのなかで、多くの人々の複雑に絡み合うなかで生起し展開するのであり、どれ一つとして単純に独立して存在することなどありえないということであった。当然のことであったかもしれないが、人々のざわめきさえ伝わってきそうな臨場感のあるベイリンの本に、歴史学とは

このように面白いものかと感動した。

ベイリンはハーヴァード大学で教えていたので、植民地時代のニューイングランド史のクラスを一度だけ覗いたことがある。一枚の図版のスライドを見せながら、そこから読み取れる歴史の事実をヴィジュアルに巧みに説明するベイリンの語り口に私はほとんど「知的恋愛」状態に陥った。

アメリカ文学の領域では個別の作家研究が「専門家」の姿勢であり、それ以外には目もくれないのが「正しい」とされるような風潮にあって、私は大きな視点を持つことの面白さを知った。そのころアメリカの大学では「インテレクチュアル・ヒストリー」という授業が盛んになっていた。1970年代のことである。一九世紀の作家を研究対象にしていた私は、「インテレクチュアル・ヒストリー」の授業を取りながら、文学者と画家や思想家がお互いに影響を受けながら芸術を高めているそのうねりの力に目を見張った。ハドソン・スクール派というニューヨークの画家たちを知ったのもこのころだった。後にハドソン川沿いを竜車で上り、画家たちの描いた風景を眺め心にとめて帰ってきた。

ベイリンの本は歴史学関係では最高の賞とされるバンクcroft賞を受賞したばかりでなく、1968年にはピューリッツァ賞を受賞する。現代の古典である。

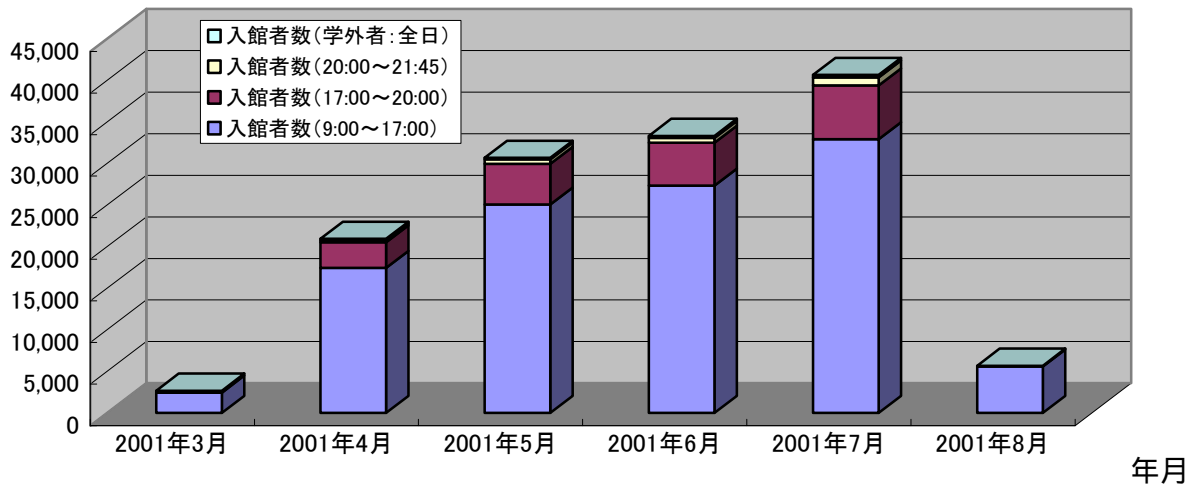


当館請求記号：
K/253/505718

[Paperback 版表紙]

図書館統計(平成13年3月—8月)

月別入館者統計

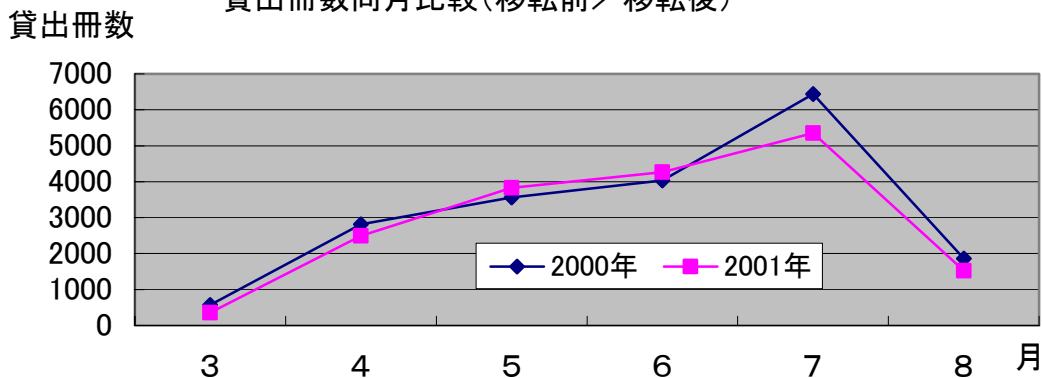


月別入館者数

年	月	開館日数		入館者数					学外者(外数)	総計
		平日	土曜	9:00~17:00	17:00~20:00	20:00~21:45	計			
2001	3	12	0	2,450	0	0	2,450	232	2,682	
2001	4	19	4	17,424	3,095	221	20,740	188	20,928	
2001	5	20	3	25,068	4,895	519	30,482	184	30,666	
2001	6	20	5	27,331	5,152	593	33,076	237	33,313	
2001	7	21	4	32,898	6,480	965	40,343	299	40,642	
2001	8	22	0	5,572	0	0	5,572	112	5,684	

貸出冊数統計

貸出冊数同月比較(移転前/移転後)



貸出冊数統計

年	月	学部学生	大学院生	教職員	計	年	月	学部学生	大学院生	教職員	計
2000	3	188	184	201	573	2001	3	150	126	79	355
2000	4	1,508	927	382	2,817	2001	4	1,382	861	255	2,498
2000	5	2,055	1,068	440	3,563	2001	5	2,332	1,173	327	3,832
2000	6	2,472	1,193	367	4,032	2001	6	2,580	1,293	389	4,262
2000	7	3,720	2,333	383	6,436	2001	7	3,600	1,402	348	5,350
2000	8	1,135	571	159	1,865	2001	8	893	408	218	1,519



図書館からのお知らせ

1. 図書館利用者アンケート集計結果報告

附属図書館では、6月18日から7月14日の間、図書館の利用に関するアンケートを、全構成員を対象に実施しました。その結果、全在籍者中1,285名(約27%)の方から回答を頂きました。この場を借りてアンケートにご協力下さった教官各位と利用者の方々にお礼申し上げます。アンケート本文及び集計結果は、下記のURLからご覧頂けます。今後は、この結果を今年度刊行予定の自己評価・点検書に掲載すると同時に、図書館の改善の指針として活用していく予定です。

* 集計結果はこちらでご覧ください。

<http://www.tufs.ac.jp/common/library/gaiyo/enquete.pdf>

2. 秋期講演会及び貴重書展示会のお知らせ

附属図書館では、昨年から公開の講演会を図書館の活動の一環として行っております。今年も、東京大学大学院教授の上野千鶴子先生をお招きして、多摩地区の一般市民、大学の学生・教職員を対象に下記の要領で講演を行います。また、同時に当館が所蔵するロシア語・中国語関係貴重書の展示会も開催する予定です。多数の方の参加をお待ちしています。

< 講演会 >

1. テーマ 「ジェンダー論の現在」
2. 講師 東京大学大学院人文社会系研究科教授・上野千鶴子先生
3. 日時 平成13年11月7日(水) 15時30分 17時
4. 場所 東京外国語大学「マルチメディアホール」(研究講義棟1階)
5. お問い合わせ・申し込み

東京外国語大学附属図書館総務係

電話 042-330-5193

FAX 042-330-5199

先着300名までで締め切ります

< 貴重書展示会 >

1. 展示資料 図書館所蔵ロシア語・中国語貴重図書
2. 日時 平成13年11月7日(水) 14日(水) 9時 17時
3. 場所 東京外国語大学附属図書館

3. 展示会報告 浅田栄次資料展示会報告

浅田栄次は本学の前身である高等商業学校附属外国語学校に明治30年英語教授として着任し以後東京外国語学校において英語教育に尽力し、大正3年東京外国語学校図書館にて読書中に脳溢血で逝去した。このたび東京外国語大学同窓会の働きかけで浅田栄次の功績を称える顕彰碑が府中キャンパスに設立され、その除幕式に併せて本学図書館で浅田栄次資料展示会が以下の日程で開催されました。

場所 東京外国語大学附属図書館2階ブラウジングホール

期間 2001年8月1日(水) 10日(金)

資料目録

1. 『東京外国語大学史』
2. 『浅田栄次追懐録』
3. 高等商業学校教授辞令

明治30年5月11日

- | | |
|------------------------------|----------------------|
| 4 . 東京外国語学校教務主任辞令 | 明治 3 2 年 7 月 1 5 日 |
| 5 . 文芸部長を委嘱す 東京外国語学校校友会 | 明治 3 3 年 1 0 月 1 9 日 |
| 6 . 東京外国語学校図書館規則草案 | 明治 3 6 年 |
| 7 . 明治 3 7 年度卒業生徒採用依頼書と送付先一覧 | 明治 3 7 年 |
| 8 . 東京外国語学校創立 1 0 年記念会施行手続き | 明治 4 0 年 |
| 9 . 東京外国語学校懸賞校歌 | 明治 4 0 年 |
| 1 0 . 「感謝状」 東京外国語学校卒業生有志一同 | 大正 2 年 8 月 3 日 |
| 1 1 . 試験問題 (英文) | 大正 3 年 |

* 3 番から 1 1 番までは、徳山市立図書館所蔵

4 . 中央大学図書館との協定締結のお知らせ

附属図書館と中央大学図書館では、両大学間の協定締結に伴い、相互利用協定を締結しました。これにより 1 0 月 1 日から、両大学の専任教官・大学院生及び単位互換協定により科目履修する大学院生は、身分証明書の提示のみで、相互の図書館が利用できるようになりました。なお、具体的な利用方法については、下記の連絡先、または図書館カウンターまでお問い合わせ下さい。

情報サービス係 : 内線 5 1 9 6 / メールアドレス tosho_joho@tufs.ac.jp

5 . 図書館活動日誌 (平成 1 3 年 4 月 1 日 9 月 3 0 日)

- 4 月 19 日 国立大学図書館協議会東京地区総会 (於東京外国語大学)
- 4 月 20 日 第一回アラビア語目録入力WG (於国立情報学研究所)
- 5 月 1-31 日 オンラインジャーナル ProQuest トライアル実施
- 5 月 7 日 CD - ROM、MagazinePlus 等のネットワークサービス開始
- 5 月 10 日 第一回中央大学図書館との協定・打ち合わせ (於中央大学)
- 5 月 18 日 四大学連合・附属図書館事務打ち合わせ (於一橋大学)
- 5 月 19 日 四大学連合・附属図書館 OPAC 横断検索サービス開始
- 5 月 23 日 平成 13 年度第一回図書館委員会
- 5 月 24 日 国立大学図書館協議会東京地区電子ジャーナル説明会 (於東京大学)
- 5 月 27-28 日 国立大学図書館協議会常務理事会・理事会 (於東京大学)
- 5 月 29 日 国立大学附属図書館事務部課長会議 (於東京医科歯科大学)
- 6 月 1 日 第一回図書館業務システム仕様策定委員会
- 6 月 12 日 情報リテラシー授業・情報検索法 (図書館担当分)
- 6 月 13 日 平成 1 3 年度第一回選書委員会
- 6 月 14 日 情報リテラシー授業・情報検索法 (図書館担当分)
- 6 月 19 日 情報リテラシー授業・情報検索法 (図書館担当分)
- 6 月 20 日 平成 1 3 年度第二回図書館委員会
自己評価・点検WG 発足、館報インターネット版打合せ
- 6 月 21 日 情報リテラシー授業・情報検索法 (図書館担当分)
- 6 月 27-28 日 国立大学図書館協議会総会 (於北海道大学)
- 7 月 4 日 第二回中央大学図書館との協定・打ち合わせ (於東京外大)
- 7 月 12 日 第二回アラビア語目録入力WG (於国立情報学研究所)
- 7 月 13 日 東京西地区大学図書館相互協力連絡会 (Tower-ALC) 加盟
- 7 月 18 日 平成 1 3 年度第二回選書委員会
- 7 月 31 日 第三回図書館業務システム仕様策定委員会
- 8 月 1-10 日 浅田栄次資料展示会 (附属図書館 2 階ラウンジ)
- 8 月 9-10 日 電子ジャーナルタスクフォース教育担当者研修会 (千葉大)
- 8 月 20 日 東京地区国立大学附属図書館・電子ジャーナルサブコンソーシアム結成
(幹事校 東京水産大学)

- 8月30-31日 アラビア語目録入力打ち合わせ（於大阪外語大、京都大）
9月10日 図書館業務システム入札説明会
9月14日 第三回アラビア語目録入力WG（於国立情報学研究所）
9月20日 第三回中央大学図書館との協定・打ち合わせ（於中央大学）
-

6. 職員の動静（平成13年4月1日 9月30日）

1. 館長交代のお知らせ

- 池端 雪浦 東京外国語大学長
（附属図書館長 アジア・アフリカ言語文化研究所教授併任）
富盛 伸夫 附属図書館長（外国語学部教授併任）
（東京外国語大学副学長）

新官職（旧官職）

2. 学外への転出

- 油谷 末弘 一橋大学附属図書館情報サービス課長（附属図書館事務長）
木村 晴茂 大分医科大学教務部図書課長（同 専門員）
吉植 庄栄 東北大学附属図書館北青葉山分館管理係（同 目録情報係）
吉田 恵理 一橋大学附属図書館情報サービス課企画係（同 研究所図書係）

3. 学外からの転入

- 内島 秀樹 附属図書館専門員
（東京大学大学院経済学研究科・経済学部図書運用掛長）
高橋 哲也 同 資料サービス係長
（一橋大学附属図書館情報サービス課参考調査係長）

本学附属図書館・研究所図書係長松本省三は、9月11日病氣療養中のところ、ご逝去されました。この場を借りて、館員一同ご冥福をお祈りします。

***** 編集後記 *****

館報カスタリア第2号をインターネット版としてお届けします。
紙媒体で刊行した創刊号からはや半年もたってしまいました。図書館のスタッフも館長を含め大幅に入れ替わり、ようやく雰囲気も落ち着いてきたところです。
今年度は、新館に移り、コンピューター環境の充実やCD-ROMのネットワークサービス、さらにはこの10月から開始した電子ジャーナルサービスなど、利用者の方々にとっても目新しいサービス環境を整備してきました。今後もこのような図書館サービスの電子化を積極的に行い、学生だけでなく、研究者にとっても使いやすい図書館をつくっていきたくと考えています。このインターネット版カスタリアも同様に、WEB上で公開し、ネットワークのどこからでもご覧頂けるようにしました。創刊号以上に多くの方に閲覧して頂けるよう館員一同願っています。

Castalia : 東京外国語大学附属図書館報 第2号 : インターネット版

<http://www.tufs.ac.jp/common/library/gaiyo/kanpo/castalia-2.pdf>

2001年9月30日発行

発行 : 東京外国語大学附属図書館 〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

TEL/FAX : 042-330-5193 (TEL) 042-330-5199 (FAX)

ホームページ : <http://www.tufs.ac.jp/common/library/index-j.html>
